梅雨入り前「麦秋」の播州路　高御位山へ　2017.5.17.

播磨富士高御位山　2017.5.17.
「麦秋」の加古川市西神吉の里より

東播磨 高御位山への道 walk

MAP

東播磨 高御位山への道 walk MAP

田に水が入り、田植えが始まった西神戸の田園　　神出の里雌岡山周辺より

5月の連休も過ぎ、西神戸では田に水が入り、
田植えの準備が急ピッチ。
東播磨の田園から加古川土手へ
久しぶりに行きたくなって
原チャリを走らす。

西神戸神出の集落を抜け、稲美に入ると
眼前に広がる田園は黄金色一色の「麦秋」
ビールや麦茶原料となる大麦栽培が盛んになり、
田に水を入れる前の大麦収穫の真っ最中。
この収穫が終わらぬと田に水が入らない。
農家は今一番忙しい時期である。

麦秋　収穫を迎えた東播磨　稲美の麦畑

「麦秋」 収穫を迎えた東播磨　稲美の里の麦畑

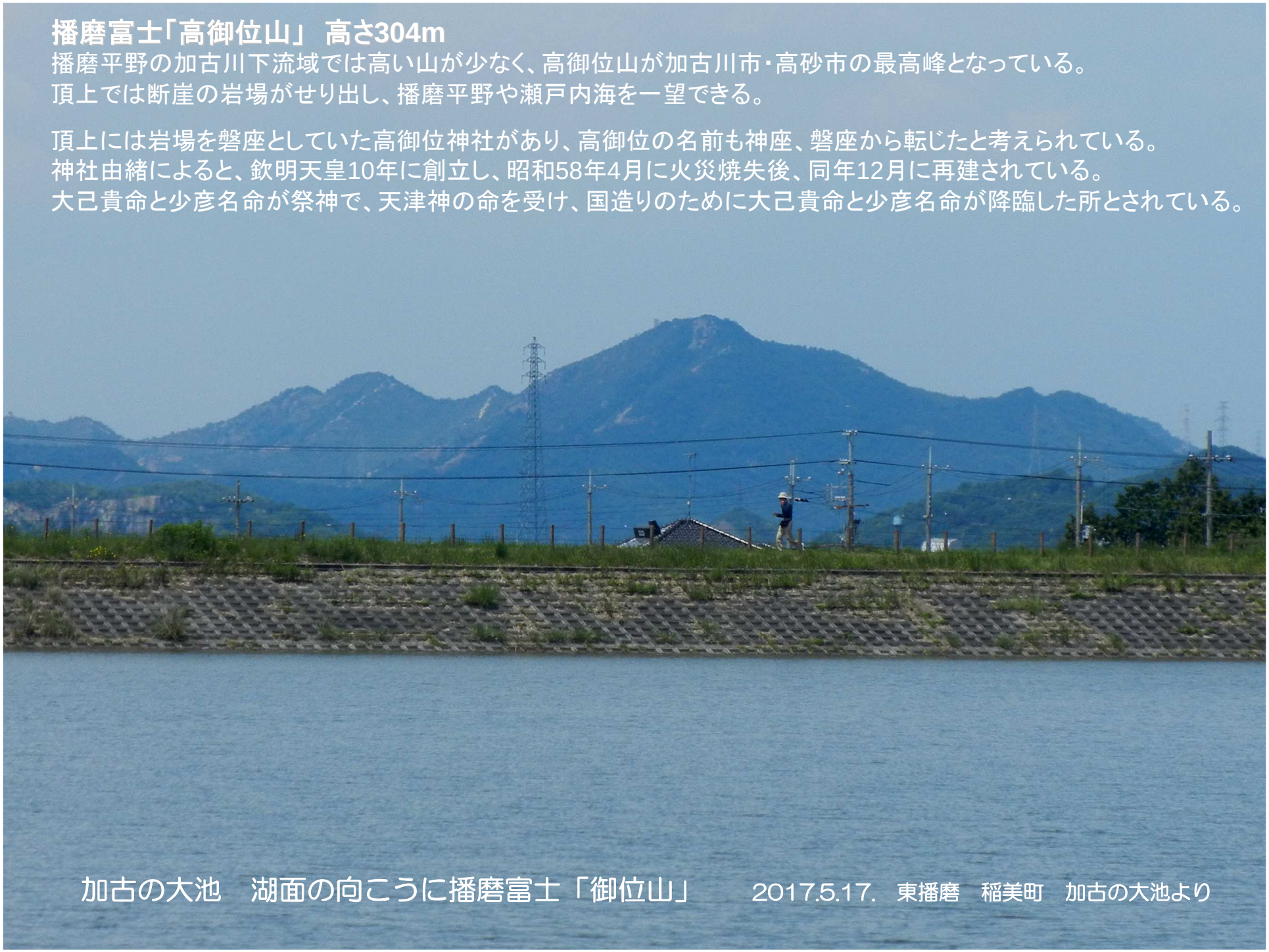
稲美を抜け、加古の大池の土手に登ると湖面の向こうに播磨富士「御位山」の美しい姿。
長いこと高御位山にも登っていない。 久しぶりに上荘橋を渡って 西神吉の里の高御位神社の
参道から高御位山へ登って、東播磨の展望を楽しむことに。

2017.5.17. 東播磨 稲美町 加古の大池より

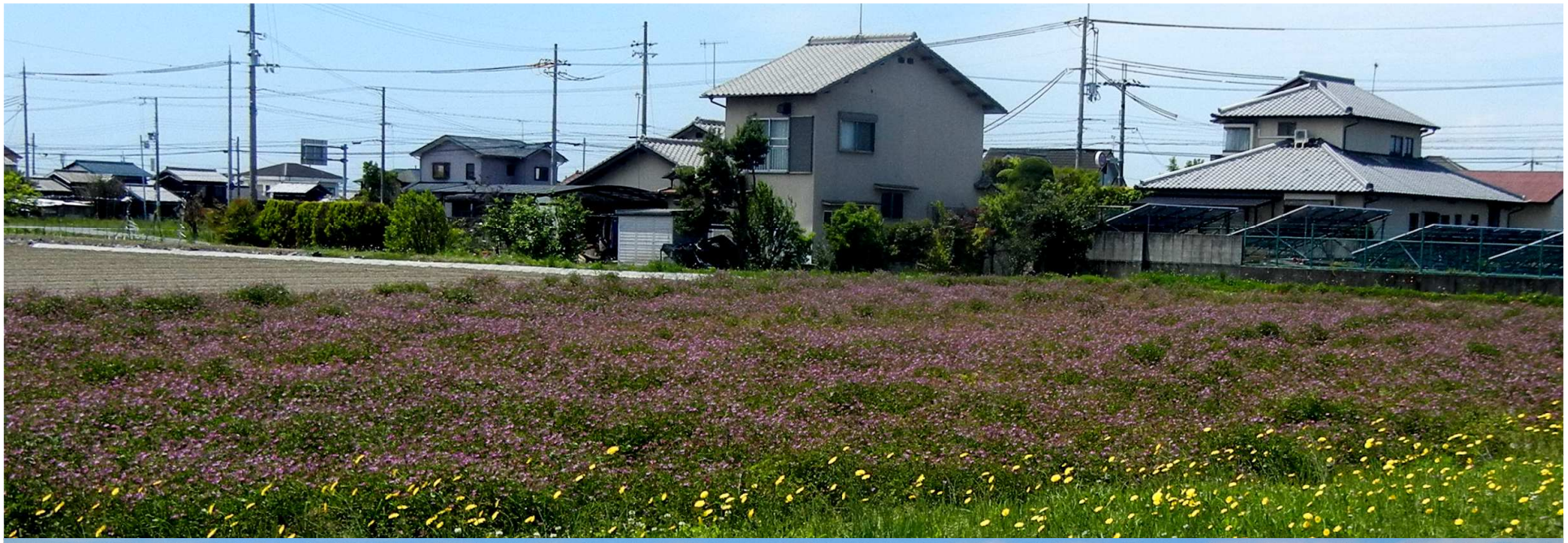
播磨富士「高御位山」 高さ304m

播磨平野の加古川下流域では高い山が少なく、高御位山が加古川市・高砂市の最高峰となっている。
頂上では断崖の岩場がせり出し、播磨平野や瀬戸内海を一望できる。

頂上には岩場を磐座としていた高御位神社があり、高御位の名前も神座、磐座から転じたと考えられている。
神社由緒によると、欽明天皇10年に創立し、昭和58年4月に火災焼失後、同年12月に再建されている。
大己貴命と少彦名命が祭神で、天津神の命を受け、国造りのために大己貴命と少彦名命が降臨した所とされている。



加古の大池　湖面の向こうに播磨富士「御位山」　　2017.5.17.　東播磨　稲美町　加古の大池より

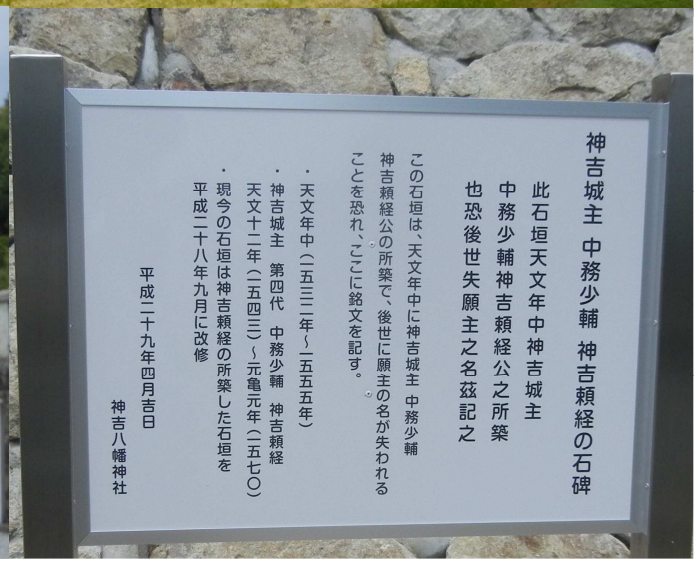


2017.5.17.　東播磨 稲美町　加古の里で

2017.5.18.　稲美町　加古の里で

加古川を西へ渡って　高御位山の麓　加古川市神吉の里に入ると
この里も高御位山を背に「麦秋」一色　　2017.5.17.　加古川市神吉の里で

神吉の里は加古川西岸に広がる里　右手の神吉八幡宮が建つ森は城だったと初めて知りました



2017.5.17.　加古川市神吉の里から　正面に播磨富士「高御位山」

東播磨　加古川西岸神吉の里の休耕田では レンゲが一面に　　2017.5.17.

東播磨 高御位山への道 walk MAP

神吉の里を東へ　まっすぐ高御位山の東山裾の志方成井の里まで　田園地帯を抜けたところが成井の登山口。東の山腹を頂上へ高御位神社の参道のジグザグ道を登る

高御位山の東側の山腹を登る志方成井登山口　2017.5.17.
高御位山の頂上の磐座 高御位神社の参道でもある

成井の登山道は頂上稜線まで、約40分ほど新緑の中のジグザグの登りが続く。
時折樹間から周辺が見えるが、視界が開けない。
でも　ゆっくり新緑を楽しみながらの登りが心地よく、
同時に　頂上稜線へ立った時の　播磨の360度の大パノラマ展望に期待が膨らむ。

樹木の間から登山口周辺の田園が垣間見える　2017.5.17.

加古川西岸 飯盛山の山並を背に先ほど通ってきた神吉の里の城跡の森(宮山)から
志方の田園が見えている　　2017.5.17.　志方成井の高御位山登山道で

こんなに良くせいびされていたか？とびっくりするほどよく整備された登山道が頂上まで続く

2017.5.17.　志方成井の高御位山登山道で

2017.5.17. 志方成井の高御位山登山道で

高御位山は360度の展望とともに笹ユリの群生地としてもよく知られている
2017.5.17．志方成井の高御位山登山道で

眼下に城山を背に志方の里全体がながめられ、頂上も近い　2017.5.17.
頂上からの南 播磨平野から播磨灘の展望も楽しみ

城山を背に志方の里全体が眺められる

宮山・飯盛山を背に神吉の里

頂上稜線が近づき、いよいよ岩肌むき出しの岩盤の上を歩く 2017.5.17.

急な岩盤を登る登山道の出口　頂上稜線目前　視界が開ける!!　　2017.5.17.

岩盤を登りきり、頂上稜線　　一機に視界が開ける!!　　2017.5.17.

巨大な岩盤の上　2017.5.17.
西に高御位神社が鎮座する岩崖　高御位山頂上が見える

北の参道から頂上稜線のこの岩盤へ飛び出した脇に南に凹型に連なる高御位山縦走路の案内図が建ち、頂上縦走路に合流　2017.5.17.

高御位山の山頂部は麓からもよく見える南へ切れ落ちた剥き出しの岩盤の上　絶好の展望台
眼下には　直下凹型に広がる高砂市阿弥陀の里　そして遠く播磨灘まで広がる高砂市の街並が遠望される

高御位山の山頂部は麓からもよく見える南へ切れ落ちた剥き出しの岩盤の上
絶好の展望台播磨平野から播磨灘への大パノラマが広がっている。
眼下直下の高砂市阿弥陀の里　そして遠く播磨灘まで広がる高砂市の街並が遠望

西は姫路　東は神戸須磨海岸まで眼下に広がる播磨の大展望　　2017.5.17.

眼前には　西は姫路　東は神戸須磨海岸まで　播磨平野の大パノラマ【1】　2017.5.17.

南西側　家島群島が浮かぶ播磨灘の手前　山並みの向こうに姫路の工業地帯が広がり、広畑の工場群やLNG基地のタンク群が見える

正面の西側　古代からの石切り場　竜山の向こうに高砂市の沿岸

正面東側　左から右端の河口へ東播磨を流れ下る加古川　霞む淡路島・明石海峡の手前　製鉄所の高炉を中心に加古川の工業地帯

南東側　東播磨の沿岸部　一番端に明石海峡に落ちる西六甲の西端の山並みが見える

《鉄の風景》かすむ淡路島を背に加古川河口東岸に神戸製鋼加古川の高炉遠望

高御位山山頂より　2017.5.17.

《鉄の風景》かすむ淡路島を背に加古川河口東岸に神戸製鋼加古川の高炉遠望

眼前には　西は姫路　東は神戸須磨海岸まで　播磨平野の大パノラマ【2】　2017.5.17.

東側: 左手に飯盛山その背後に平荘湖　右手に神吉の里が眺められる

志方広尾の里

東播磨の田園を流れ下る加古川の手前　神吉の里

北側: 高御位山の尾根の北側　正面城山の手前に樹木に隠れて志方の里　背後に小野アルプスの連山が見える

正面南　崖下から播磨の海へ　高砂の街が広がっている　2017.5.17.

眼下の高砂阿弥陀の田園の向こう播磨灘に浮かぶ家島群島　　2017.5.17.

南西側　姫路の工業地帯　発電所のLNGタンク基地　2017.5.17.

南西側　姫路の工業地帯　広畑の工場群遠望　2017.5.17.

見上げる高御位山の頂上の大きな岩盤　ここに高御位神社が鎮座しているが、
磐座など古い遺跡が点在し、高御位の名が示すとおり、信仰の山でもある　2017.5.17.

展望を楽しんだ後、高御位神社が鎮座する山頂へ　2017.5.17.

この周辺は古代からの石切り場　すぐ南には竜山石・石宝殿生石神社で有名な竜山
頂上への稜線も岩盤上の道である　2017.5.17.

頂上稜線　岩盤上の登山道　2017.5.17.

遠く加古川の高炉と古代から続く竜山石の砕石場竜山が1枚のアングルに
頂上稜線　岩盤上の登山道より　2017.5.17.

麓からゆっくり山腹の新緑や播磨平野の大展望を楽しんで1時間ほどで頂上にある高御位神社へ
2017.5.17.

高御位山頂上　高御位神社　　2017.5.17.

高御位山古代祭祀遺跡のご案内

高御位山は、古代より山岳崇拝の聖地として、播磨一円の人々の厚い信仰を集め、
山上の巨岩は神霊の宿る場として、長い歴史の流れの中で、人々は、報恩反始の心もて、その山容を、仰ぎつつ、今日に至っている。

高御位大神御降臨之座址

神社南側の岩場は、今から約千二百年前の大同２年３月21日に、大国主命が、国造りのためにこの岩場におりてこられたと云う言い伝えがある。

古代祭祀遺跡址

前方の岩場一帯は、仏教が日本に伝わってきた以前の弥生時代から古墳時代にかけての
古代人が神をお祭りするための「祭り事」を行った跡であろうと云われている。

祓禊(みそぎ)址

この扇形のくぼみは、古代人が、神にお参りする前に身を清めるための水を溜めるため、
岩をくりぬいて作った穴であろうと云われている。

盃状穴(はいじょうけつ)址

この盃のような形をした小さな穴は、古代人が石のようなもので岩肌をこすりながら
神に祈りを捧げたときに出来た穴であろうと云われている。

御水(みもひ)址

この米粒のような形にくりぬいて作った穴は、古代人が神にお供えする水を溜めるために岩をくりぬいて作った穴であろうと云われている。

平成十六年十二月二十日

高御位神社が鎮座する頂上岩盤(古い磐座)の崖から眺める播磨平野(1)　2017.5.17.

高御位神社が鎮座する頂上岩盤(古い磐座)の崖から眺める播磨平野(2)　2017.5.17.

高御位神社が鎮座する頂上岩盤(古い磐座) 2017.5.17.

高御位神社が鎮座する頂上岩盤(古い磐座)の崖　頂上縦走路　2017.5.17.

高御位神社が鎮座する頂上岩盤(古い磐座)の崖に戻る　2017.5.17.

高御位山頂上　高御位神社　　2017.5.17.

高御位神社から　もと来た登山道を引き返し、志方成井へ戻る　2017.5.17.

高御位山登山には山の南高砂阿弥陀町側鹿島神社登山口や馬の背登山口から登り、高御位山を縦走するコースがよく使われる。 志方成井の登山道は頂上まで短時間で登れることや山腹に笹ユリの群生地があり、それを見に登られる。 また　地元の里の昔からの道でもある

高御位神社から　もと来た登山道を引き返し、志方成井へ　**頂上縦走路を東へ戻る**　**2017.5.17.**

高御位神社から もと来た登山道を引き返し、志方成井へ 再度 **頂上縦走路を東の端で** **2017.5.17.**

高御位神社から　もと来た登山道を引き返し、志方成井へ　再度 **頂上縦走路の東端で**　　**2017.5.17.**

頂上縦走路の東端で　頂上部を振り返る　　2017.5.17.

ここから　縦走路を離れ、北へもと来た登山道を引き返し、志方成　へ

もと来た登山道の入り口　志方成井の里が見えてくる　2017.5.17.

麦秋を迎えた神吉の里　点在する黄金色の田が見え、まもなく志方成井へ降りる　2017.5.17.

志方成井の登山口へ降り、もと来た道　麦秋の神吉の里を抜けて家路へ
秀麗な高御位山が帰りを見送ってくれる　2017.5.17.
今日は帰って　ビールをぐいと。

梅雨入り前「麦秋」の播州路　高御位山へ　　2017.5.17.

5月の連休も過ぎ、西神戸・東播磨の田園では田に水が入り、田植えの準備が急ピッチ。
同時に田園地帯一帯を黄金色一色にする「麦秋」の里も。
梅雨入り前・初夏　西神戸の田園の美しい景色が頭によぎって、
久しぶりに東播磨の田園から加古川土手へ行きたくなって原チャリを走らしました。

西神戸神出の集落を抜け、稲美に入ると眼前に広がる田園は黄金色一色の「麦秋」
ビールや麦茶原料となる大麦栽培が盛んになり、田に水を入れる前の大麦収穫の真っ最中。
この収穫が終わらぬと田に水が入らない。　農家は今一番忙しい時期である。
加古の大池の土手に登ると湖面の向こうに播磨富士「御位山」の美しい姿を見せている。
「久しぶりに高御位山へ登って、頂上から播磨平野の大展望を眺めよう」と。

高御位神社参道登り口近くの神吉の里でも「麦秋」真っ盛り。
播磨富士と呼ばれる秀麗な姿の高御位山をバックに眼前に広がる田園は黄金色一色。
まったく知らなかった高御位山山麓「麦秋」。
素晴らしい東播磨梅雨入り前　初夏の素晴らしい景色に出会えました。

志方成井の高御位神社参道登り口から久しぶりに登ったのですが、新緑が美しい登山道が
よく整備されていてびっくり。　登り口から1時間弱で登った頂上からの東播磨の大展望も
期待にたがわず。　うれしい東播磨麦秋walkになりました。

やっぱり眼が行く「鉄の景色　-加古川河口神戸製鋼加古川製鉄所-　」
播磨灘にぼんやり浮かぶ淡路島の山々を背景に　高炉を中心とした製鉄所の遠望。
久しぶりに高炉の風景に出会えたのもうれしい。

いつもの気まぐれ風来坊の原チャリ
梅雨入り前の初夏　東播磨田園の麦秋に新しいページが加わったと。
振り返ると秀麗な高御位山が背後にそびえる黄金色一色の播磨の里を風が渡ってゆく。
今日は帰って　ビールをぐいと。

梅雨入り前の気まぐれな天候の2017.5.17.午後
麦秋の東播磨田園地帯を走り抜けながら　　Mutsu Nakanishi

《鉄の風景》かすむ淡路島を背に加古川河口東岸に神戸製鋼加古川の高炉遠望

2017.5.17.　加古川市神吉の里から　正面に播磨富士「高御位山」

東播磨　高み位山の麓　神吉の里の休耕田では レンゲが一面に　　2017.5.17.

田植えで忙しい西神戸の田園で

梅雨入り前「麦秋」の播州路　高御位山へ　2017.5.17.

無理せず元気に!!　これからの梅雨を乗り切りましょう

播磨富士高御位山　2017.5.17.
「麦秋」の加古川市西神吉の里より